

喜寿を迎えて

喜寿を迎えたからといって何のこともない。腰が痛いとかひざが痛いとか云う事もないが、難病指定を受けている。車の遠乗りや激しい運動はだめなくらいでそれ以外の制約は特にない。50代の頃、屋根からソーラーと一緒に3m下の道路に落ちたことがあった。幸いひざの骨折くらいで済み60代の還暦を迎えることができた。そして70歳で難病指定を受けることになった。

77歳の喜寿を迎え思うのは68歳から72歳が要注意とわかった。

この年に大病の入院で、又は小さな病を引き起こすケースがでる。だから70歳は自分を守るということで一番気を使うことが大切である。80代までのライフプラン、身の回りの整理と身を軽くすること、服アルバムとか処分、又終末期までの考えを書き残して終わりにしたい。

結婚して50年、妻と過ごした年は約60%、残り40%は単身赴任や家にまともに帰らなかった。妻が思い出は何もないと言う。いてほしい時代におらず、古希過ぎて居なくてもよいのに家にいる厄介者であるような気がする。私の生き甲斐はゴルフ、ゴルフ無くして夢は無く寂しい人生の生き様として、見ることになる。立派なゴルフ場、寂れたゴルフ場。100もたたく私にとって殆ど関係なくプレイが楽しめる。

毎月必ず参加してゴルフするのは写真の4名です。欠員が出ても気持ちよく参加してくれる、漆原さんと山地さん良い仲間です。ただゴルフするだけではなくショートホール4つあり、一人1,000円出し賭けをする。ショートオンし



ないときは次のコースでパーオン、ニアピン者が獲得する決まりごとと決めている。帰りのコーヒータイムの話として楽しんでいます。